



**シラバス参照**

タイトル「**2016年度 経済学部シラバス**」、フォルダ「**2016年度 経済学部シラバス**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	交通システム論		
担当教員	<a href="#">辻本 勝久</a>		
対象学年		クラス	E1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	月 3	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	標準履修年次 2年次		
科目名 (英語表記)	Transport Systems		
授業の概要・ねらい	<p>持続可能な社会とは「環境保全」「社会の安定的維持」「経済発展」が鼎立する社会である。私的な自動車に過度に依存した従来型のまちづくりは必ずしも持続可能ではなく、徒歩・自転車・公共交通とマイカーを適切に活用する「かしいまちづくり・ひとづくり」への転換が求められている。このような中で、環境・交通・道路・まちづくり等の政策領域をパッケージ化した「交通まちづくり」の有用性が指摘されている。</p> <p>人口十数万～百万人規模の地方都市圏においては、既にならかなり程度まで車利用を前提としたまちづくりが進められているほか、高齢化の進展や厳しい財政状況の中、持続可能型社会づくりに向けた地方都市圏ならではの工夫が必要となる。</p> <p>この講義では、人口十数万～百万人規模の地方都市圏における交通まちづくりについて理論・実務の両面から論じる。</p>		
	回	内容	
	1	イントロダクション: 地方都市圏の交通システムの現状と課題 1.1 都市の拡散と私的自動車依存、公共交通衰退の同時進行 1.2 持続可能な発展とは	
	2	交通システムと都市圏の持続可能性 (1) 環境面から 2.1 地球の気候変動 2.2 気候変動と交通システム 2.3 環境に優しい交通システムづくりに向けて	
	3	交通システムと都市圏の持続可能性 (2) 社会面から 3.1 交通システムと生活の質 3.2 自動車依存型のまちづくりと安全性 3.3 自動車依存型のまちづくりとコミュニティの分断、景観の破壊 3.4 大気汚染物質の発生源としての自動車 3.5 自動車依存型まちづくりと健康	
	4	交通システムと都市圏の持続可能性 (3) 経済面から 4.1 わが国の道路投資額の推移 4.2 国と地方の長期債務残高と道路投資 4.3 わが国の道路整備水準 4.4 都市の拡散と財政コスト 4.5 自動車依存と中心市街地の衰退 4.6 自動車依存型都市圏と空間の浪費 4.7 資源高騰下のエネルギー効率と交通システム: 国・地域の経済競争力の観点から	
	5	都市構造の転換: 拡散型都市からコンパクトシティへ 5.1 環境・社会・経済面の諸課題とコンパクトシティ化 5.2 コンパクトシティの特性 5.3 海外のコンパクトシティ政策 5.4 わが国のコンパクトシティ政策	

授業計画		5.5 コンパクトシティ化に向けて
	6	需要追従型交通システム整備からの脱却（1） 6.1 従来型の都市道路ネットワーク構成の理想像：プキャナンシステム 6.2 TDM（交通需要マネジメント） 6.3 道路を歩行者・住民の手に取り戻す：交通静穏化(Traffic Calming)
	7	需要追従型交通システム整備からの脱却（2） 6.4 トラフィックゾーンシステム 6.5 ロードプライシング 6.6 カーシェアリング
	8	社会的価値を重視した交通システムの整備・運営 7.1 厳しさを増すわが国の公共交通経営 7.2 公共交通機関の社会的価値 7.3 公共交通の社会的価値と独立採算原則：日本と欧米の考え方の違い 7.4 社会的価値に応じた財源再配分の必要性 7.5 社会的費用便益分析の実施と地域住民参画型交通まちづくり 7.6 外部経済・不経済の内部化による交通システム整備・運営
	9	一人ひとりの意識と行動の転換を促す：モビリティ・マネジメント 8.1 モビリティ・マネジメントとは 8.2 MMの具体的な検討・実施手順やツール 8.3 職場（事業所）を対象としたMM：和歌山都市圏の事例 8.4 地域住民対象のMM 8.5 学校におけるMM
	10	高齢社会の到来と福祉の交通まちづくり（1） 9.1 福祉の交通まちづくりの必要性 9.2 ユニバーサルデザインの考え方を採り入れたバリアフリー 9.3 わが国の交通施設を中心としたバリアフリー化の現状
	11	高齢社会の到来と福祉の交通まちづくり（2） 9.4 バリアフリー新法と福祉の交通まちづくり 9.5 和歌山市六十谷駅周辺バリアフリー基本構想の事例 9.6 スペシャル・トランスポート・サービスと福祉の交通まちづくり
	12	地方都市圏の公共交通幹線と交通まちづくり（1） 10.1 都市の多様な交通手段と適材適所の活用 10.2 鉄軌道の一般的な特性 10.3 持続可能な地方都市圏づくりと中量輸送システムの役割 10.4 LRTと地方都市圏のまちづくり：ストラスブルなどの事例
	13	地方都市圏の公共交通幹線と交通まちづくり（2） 10.5 わが国の地方都市圏の交通まちづくりとLRT 10.6 BRTと地方都市圏の交通まちづくり
	14	地方都市圏におけるバスの再生と交通まちづくり 11.1 バスシステムの特性と利用状況 11.2 バスの需給調整撤廃と補助制度の変容 11.3 都市のバスシステムの再生方策
15	まとめ：地方都市圏における総合的な交通まちづくり計画の策定 ー持続可能な都市圏を目指してー	
到達目標	キーワードを理解し、簡単に説明できること。 講義内容を踏まえて、持続可能な都市づくりに向けた提言を行えること。	
成績評価の方法	確認シートとグループレポート30%、定期テスト70%の配分で評価する。定期テストは参照不可とする。	
教科書	辻本勝久『地方都市圏の交通とまちづくりー持続可能な社会をめざして』学芸出版社。	
参考書・参考文献	山中・小谷・新田『改訂版まちづくりのための交通戦略 パッケージ・アプローチのすすめ』、学芸出版社。	
履修上の注意・メッセージ	私語防止のため履修者が確定次第、全席指定とする。その際、目が悪い等の事情には配慮する。90分間のうち前半は一般的な講義形式、後半はグループワークなどのアクティブラーニング形式で実施する予定である。	
履修する上で必要な事項	IC学生証で出欠確認を行うので、必ず携帯すること。	
受講を推奨する関連科目	履修手引の科目関連図を参照のこと。	
授業時間外学習についての指示	教科書を一読の上で受講すること。	
その他連絡事項		